



地域の方々に愛され 見守られながら

渡波小学校

明治6(1873)年に創立された渡波小学校は、目の前にJR石巻線渡波駅や渡波郵便局があり、万石浦に臨む牡鹿半島の玄関口である、渡波地区の中心部に位置しています。現在地に校舎を構えたのは、明治43(1910)年で、創立当時は、現渡波支所付近に位置していました。

1月1日現在の児童数は458人(7学級)で、多くの学校が、少子化の影響により児童数が減少する中、わずかながら増えています。

渡波小学校では、「地域に密着・共存する学校」として、地域の方々との関わりを大切にしながら、地域の文化や歴史を子ども達に伝えていきます。

「総合学習」の中で行われる料理教室では、地域の祖母世代の方が講師となり、



▶中身まぐとれるかな？
(親子料理教室にて)



▶ドキドキ・ワクワクの釣り大会

保護者も参加して魚のさばき方を習います。また、「海の学習」と題した釣り大会なども企画し、地域の方の指導のもと、身近な海に生息する魚の種類や生態を学ぶなど、地域の方々の支援により、普段体験できないことを体験しながら楽しく学習しています。

学校をこよなく愛し、将来を担う子ども達のために、このほかにも地域の方々からは、特別に作ったひな人形(毎年2月になると校長室に飾られます)や国民学校時代の看板、明治29(1896)年から昭和20(1945)年までチャイム代わりに使用されていた鐘など、当時から数多くの貴重な品が寄贈されています。学校では、地域の方々と共に歩んできた学校の歴史を知る機会にと、それらを子ども達の目に触れるよう玄関に展示しています。

このような環境の中で学校生活を送る渡小3子達は、学校の活動を通して地域の方々と触れ合ふことにより、学校が目指している子ども達の姿に自然と近づいています。地域の方々の学校を愛する心は、次代を担う子ども達の手によって、今後引き継がれること(でしょう)。

にぎやか家族 ④

渡波地区塩富町



写真左から、祐太くん、沙奈ちゃん、怜奈さん
《将来の夢》

津田 祐太 くん (11歳) ACミラン(イタリアプロサッカーチーム)でプレー
怜奈 さん (8歳) パティシエ
沙奈 ちゃん (2歳) ミッフィーちゃん(本人談)

〈両親から〉
素直に明るく、兄妹仲良く！

今月の表紙から

春菊と言えば、冬の鍋料理に欠かせない独特の香り豊かな食材です。ところが、食用としているのは東アジアだけで、原産地のヨーロッパでは、観賞用として栽培されています。春になると菊とそっくりな花をつけ、葉が菊の形に似ていることから、この名がついたといわれています。

春菊は同じ緑黄色野菜のほうれん草などに優るβ・カロテンが含まれています。β・カロテンは、細菌やウイルスに対する免疫力を高めるので、風邪の予防などに効果があります。

石巻の春菊は、県内でも有数の産地であり、なかでも河南鹿又地区が主産地です。主に秋まき(冬取り)で、品種は「なべ奉行」が中心となっています。

今回は、1月上旬にほんのり春菊特有の香りが漂っている門間さんのビニールハウスを

訪れました。作付面積が10アールで、9月初めに種をまき、10月に定植し、11月から収穫が始まります。収穫は、3月下旬まで続き、農協を通して市内や仙台方面の市場に出荷しています。

門間さんは「あまり休みがとれず無理をしていますが、身体がきついときもあるけど、地域の方が好意で手伝ってくれるのでとても助かっています。地域の方々の交流が何よりですね」と話していました。



門間重孝さん・咲子さん
(河南鹿又地区)

羽ばたけ！ 若人 ⑦



高橋 寛司 君
(湊中学校 3年)

昨年8月上旬に、北海道釧路市で行われた「U16エリートキャンプ2008」

(日本アイスホッケー連盟主催)に召集され、アイスホッケーで大いに活躍が期待される高橋寛司君を紹介します。

昨年8月のキャンプは、全国からアイスホッケーの有望選手(16歳以下)が召集され、県内では高橋君ただ一人選ばれ

参加しました。北海道の選手と練習したことがとても良い刺激になり、もっとレベルアップしたいと強く感じました。

高橋君は、幼稚園のころからアイスホッケーに取り組み、小学校までは石巻ジュニアアイスホッケークラブに、現在は勝山ジュニアアイスホッケークラブ

(仙台市)に所属しています。毎週火・木曜日の午後8時から、仙台の勝山スケートリンクで練習に励んでいます。

高橋君のポジションはFWセンター、スピードとバックのキープ力が持ち味で、フォアチェックも優れています。

昨年12月に行われた「第30回東北中学校アイスホッケー競技大会」では、県選抜の中心選手として出場し、準優勝に輝

き、2月5日(休)から北海道帯広市で行わ

れる「第29回全国中学校アイスホッケー大会」の出場権を得ています。

高橋君は「思い通りのパス回しで得点を決め、チームの仲間と喜び合えることがアイスホッケーの魅力です。2月の全国大会で良い成績を残し、将来は、できれば大学までは続けていきたい」と話していました。

これからも指導してくれる方や協力してくれる方々に感謝の心を忘れずに、常に向上心を持ち続け、大きな夢をぜひ実現させてください。

※相手にバックを取られたとき、すぐに自陣に戻らず敵陣でなわチェックを続け、相手に反撃のチャンスを与えないこと



長寿のひけつ



好き嫌いなく、なんでも

食べることが健康のひけつ

武山 あやのさん(河北地区長面)

今回は昨年12月28日で100歳を迎えられた武山あやのさんを紹介します。



しいタクシーで行ったので、近所の人たちはびっくりしていたそうです。

ご主人は体が弱かったので、田畑などの力仕事は、すべてあやのさんが行っていました。そのなかでも30キロの米を背負って、長面から山を越え雄

勝の浜までの遠い道のりを歩いて売りに行ったことが一番大変だったとのこと。

足腰が弱くなってきた90歳まで元気に田畑で働き、今も薬を飲むことなく元気に毎日の生活を楽しんでいます。

「長生きのひけつは？」と尋ねてみると「なんでこんなに生きたのか、自分でもたまげるとユーモラスに応えてくれました。

好きなことは「日に3度のごはん、若いときから「自分で作った野菜をたぐりとり、魚を食べたこと」が長生きのひけつです。

嫁へときには、当時としてはめずり

17歳から石巻赤十字病院の売店の仕事をしていたが、たまたま入院していた武山松助さんと知り合い、31歳で結婚し、3男3女の子宝に恵まれました。

嫁へときには、当時としてはめずり

